

●コロナウイルスへの対策 里山の会の方針

世界の産業と経済を揺るがし、株価の下落が進み、先行き不明から G7 財相による電話会談が緊急に持たれるなど影響が多方面に表れています。まさにパンデミックです。日本では抑え込められているのか、これから先にどうなるのか、まだまだ不安ばかりが目立ってきています。ワクチンはそう簡単に開発されるものではなく、人間の行動範囲を自粛すること以外に見当たらないようです。里山の会として 18 日の事務局会議で議論が伯仲しました。近辺では患者が発生していないから神経質になる必要はない、通常通りの体制でいいのではないかと、少なくとも何か対応すべきではないかと、屋内と屋外の会場の違いも計算に入れてといった意見が見られました。論議の結果、受付作業のなかで対処すべきと落ち着きました。受付用紙に体調に欄を設けて自主的に現状を記入することに落ち着きました。あくまでも世間の流れに十分注意し、自主的な対応を徹底して、封じ込めに歩調を合わすことになりました。

●植物班の活動 ユキワリイチゲ観察会 15 日 13 時から行われました

春の兆しが見えてきますと名前の通り積もった雪を割って芽を出してくる植物がたくさんあります。フクジュソウやカタクリ、希少種と位置付けられる物たちに多くあります。里山の会ではユキワリイチゲやミヤマカタバミ、ニリンソウ、イヌナズナなどがその類でしょう。3 月半ば前には、ユキワリイチゲが美しい花を咲かせます。一度ご覧になるとどなたも虜になります。誰でも自分の庭に咲いたらと胸を躍らせるものです。こういう思いは誰にもあり、それを実現させてきたので、次々と自然に自生していた植物が少なくなっていたのだと思います。こうしたことが度重なりますので多くの方々に広く広報することをためらうことになります。植物班の皆様はこの点を深く自覚されて、矛盾を感じつつ現地を訪ねていただきました。10 人の集団になって、これまでよりも調査観察場所を広げることができて、付近一帯でつぼみを 50 個確認できました。また群落も 3 カ所にあることもわかりました。秋の地域説明会や展示発表会でご覧になっていただけるとと思います。ご期待ください。

●ヤマトサンショウウオの観察

冬の終わってから春の始まりには、多くの生き物が行動を活発にします。ニホンアカガエルはいち早く卵が産みつけられました。つい最近にはヤマトサンショウウオの卵嚢が 6 対発見されました。まだこれからも産卵が続くのではないかと期待をしています。昨年は最終的に 24 対が発見されていますので大いに期待が膨らみます。電気柵や夜間監視カメラにアライグマやタヌキ、イノシシ、ノウサギの徘徊が撮影されています。今年の気候の変化は比較的に暖冬ぎみだったので生き物の生活にどう影響がみられるのかに興味があります。

●京都府指定の「絶滅の恐れのある生き物」について 条例説明学習会を 25 日 13 時から京田辺市中央公民館で開催します。

説明は京都府自然環境課：小田嶋さんから報告をいただきます。やましろ里山の会は、ヤマトサンショウウオとフナバラソウ、レンリソウの三種を管理保存する団体に登録しています。これまで 10 年近く継続して保全に努めてきました。植物に関しては 2007 年にレンリソウやフナバラソウを発見し、同じころカスミサンショウウオの卵嚢を発見し、2015 年にはヤマトサンショウウオの生体を確認し、以後継続して保全につとめています。生育池に落下が予想される巨大な枯れ木の切り倒しなど生育環境の保全に自力で努めてきました。以後もこれまで同様な努力を継続するためには少なくとも用具や道具の経費また人的作業を伴うものについて予算があればと考えています。これまでは電気柵や夜間にも撮影可能なカメラや気温水温水位の自動測定器と記録装置を自費で購入してきました。これらの記録発表は多くの皆さんに好評を得てきました。また人里遠く離れているので交通費などかなりの負担になってきています。こうした経費についてどう考えていけばいいのか課題が山積みです。いい解決策が見つかるといいなあと期待しています。

●木津川希少種生育調査管理業務に応募申請

今年も2月下旬に木津川希少種生育調査管理業務について公募があり、応募しました。この業務は八幡市の京阪鉄橋付近から木津川市加茂町の恭仁大橋の上流部分(小谷樋門)までの広範囲に散在する40箇所:16000㎡に及ぶ生育地の植生調査と生育環境保持の除草作業の実施となります。これまでは各所年間2回の草刈り作業と刈草の持ち出し、運搬、処分を行い、毎月の植生調査の実施とされるものです。多くの皆様のご協力でこれまで3年間無事に終え完了検査を受けました。2020年度も受注ができたあかつきには、ぜひともお力添えをお願いいたします。木津川に生育する貴重な植物を取り巻く環境の維持に役立てられればと思います。

●京都府交響プロジェクト交付金事業報告まとめに全力傾注 実績冊子129枚250頁に

毎年3月末は交付金事業などの報告書類の作成や事業まとめの時期になり3月末に迫っており、気分的にも随分と重荷になってきます。特に今年は例年に比べて内容が深められていますので書類化に時間がかかっています。まとめてみますと京都府の公共プロジェクトだけでも129頁の事業成果物になります。物理的に膨大なものです。国交省への木津川希少種生育調査管理業務では90頁の提出資料になりました。何れも一枚一枚に記入することになりますので、ずいぶんと大量の事務作業の積み重ねが年間を通じて蓄積されてきたものです。理事各位をはじめ、社員の皆様の絶大なご協力が必要になります。一層のお力添えがなくては処理できないものです。

●里山農園 3月17日 ジャガイモ種芋を植え付け

久しぶりに農園作業が実行されました。大人と子供15人が終日にぎやかな声に包まれました。この時期の仕事はジャガイモの植え付けの時期になります。まもなくエンドウ豆の時期を迎えるのですが、昨年と同様6kgの種芋を用意して160株となりました。元気に大きくなっておいしい芋が収穫できることを願っています。昨年は思うような収穫ができず、販売金額は2000円で大変不作でした。今年は7人の大人と子供8人の大変にぎやかな作業でした。きっと大収穫となることに期待をしています。

●日本ミツバチの養蜂に農園に設置依頼がありました。事務局会議で検討した結果をお知らせいたします。

日本ミツバチは益虫と位置づけられていて、危害を加えない限り人へ攻撃はしないものとされています。しかし、近づいて、攻撃されると勘違いすることもないとは言えず、蜜を吸いに来るスズメバチはかなり狂暴なものなのですが、こうした機会に出くわさない限り安全度は高いものだそうです。里山の会事務局としては、期間を6月末までと限定して、この期間中に、子どもたちが集中して集まってくることがある場合には安全監視員の配置をすること、そして養蜂箱の設置は教育棟から離れた北の道を中心に設置することの三点の条件で合意して、20日に現地確認を行って、実施することに決まりました。通路の道や設置場所における雑草の刈取りはお願いすることにしました。(設置場所は13号14号地付近との見通しです)。

●里山の会は国交省が認定する河川協力団体です

全国で多くの団体が一級河川107河川を活動の場に行っています。近畿地方整備局管内で23団体が指定を受けています。このうち国交省から発注を受けて作業を行っているのは現在のところ4団体だと聞き及んでいます。これまで結成以来木津川の植物を自主的に調査観察維持保全に取り組み、917種の生育を確認し、その多くを標本保存し、「木津川の植物」や「京都府植物誌目録ノート」の発行を行ってきました。こうした実績が認められ河川協力団体と位置付けられたと考えています。特に2000年には木津川出張所長の加藤哲夫さんからNPO資格がこれから必要になるからとご助言を頂き、今日に至っています。この間河川レンジャーの発掘育成に努めレンジャー活動でも中心メンバーとして活躍を果たしてきました。結成以来長年の課題でありました専従職員実現のための最大の課題である財源の確保が見通せてまいりました。結成25年記念を前に大きく躍進できることになりました。明るい見通しが開けることになりました。更に新しい困難が待ち受けていますが頑張っていきましょう。